

HASE TSUBURA PRESENTS

# 長谷円



# ブラッ アサ

あら  
おはよう



僕の小さな  
楽しみのひとつ  
だった



彼女はご主人を  
送り出した後に  
ゴミ出しをする

おはよう  
ございます



時間を合わせて  
偶然を装って  
彼女と顔を  
あわせる



ぐっすり寝て  
ちゃんとごはん  
食べてる？





まっ…  
待ってたわ



様子がおかしいのと  
関係があるかも…  
と思い帰宅時に  
彼女の部屋へ



あっ…

あっ

?



えっ

とっとにかく  
入って!





なんて  
ヒーローは  
できなかつた



大丈夫よ  
私にまかせて

はい





はい…

気持ちに身をまかせてね 大丈夫よ

はっ！あー

あーっ

あーっ

ここはもう立派ね 書いてあげる

あーっ

あーっ



ひとみさんの  
感触がすごすぎて  
もうわけが  
わからなくな  
った



このまま  
クチに出す？  
やっぱやりたいよね







ひとみさん…  
イク…イきますっ



えっ  
ガマンしないで  
中に出してね



イっていいよ  
中で





おおおっ  
ニヒヒヒ



ワリイな少年…  
見てたら参加  
したくなつたわ



中の  
壁ごしのチンポ  
わかるか少年





彼女が気絶しても  
何度もやり続けた

ああすごい  
アナルの感触ヤバイ...

だろ？

んっ  
んっ  
んっ

んっ  
んっ

んっ  
んっ

またやりに来いよ  
ポウズ！

はいっ

なあ  
好きだろ  
チンポ

ひんぼ  
らいひゅきっ

ふぁい

ああそんな  
締めつけないでっ  
ヒトミさんっ

アナルに  
出るうっ

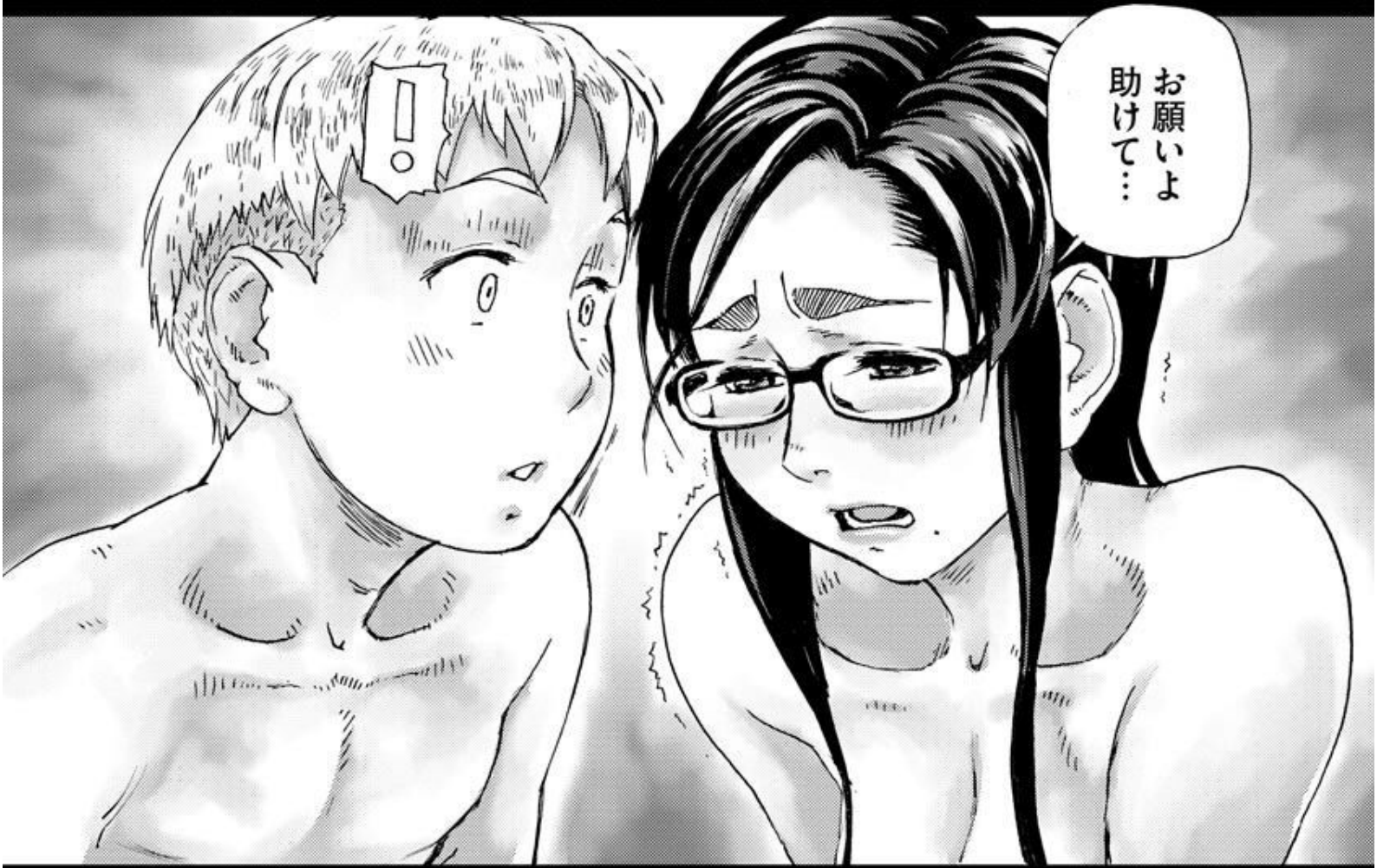
ドッ



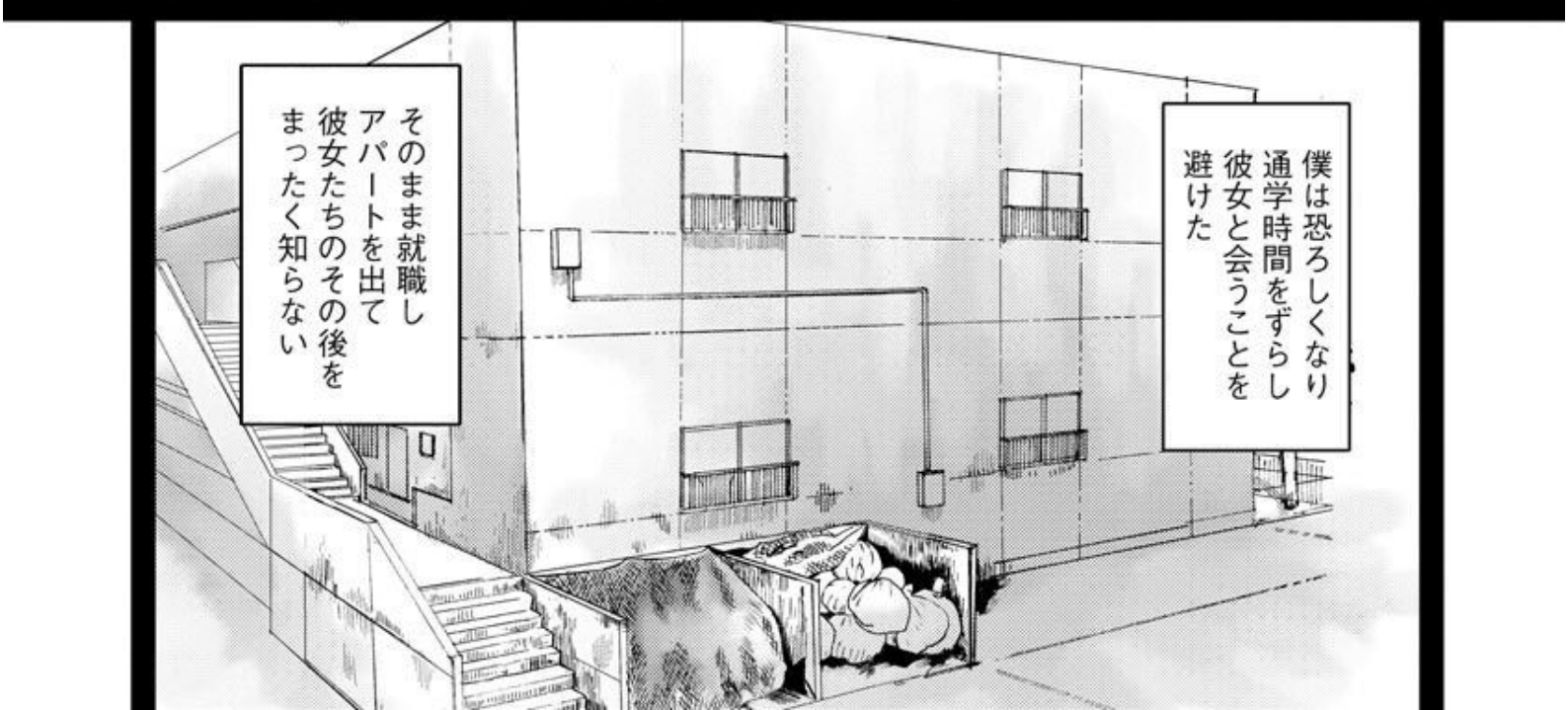




別れ際の  
彼女の言葉が  
耳から  
離れない



お願いよ  
助けて…



そのまま就職し  
アパートを出て  
彼女たちのその後を  
まったく知らない

僕は恐ろしくなり  
通学時間をずらし  
彼女と会うことを  
避けた

**Fin**